

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成23年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

研究開発プロジェクト

「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」

研究代表者氏名 小川 晃子  
(岩手県立大学社会福祉学部 教授)

## 1. 研究開発プロジェクト名

ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり

### 2. 研究開発実施の要約

#### (1) 研究開発目標

本プロジェクトは、独居高齢者等の社会的孤立の問題に対応し、生活支援型のコミュニティづくりの実証的検証を目指す。これまで岩手県立大学が岩手県等と連携して取り組んできたICT（情報通信技術）を活用した高齢者安否確認見守りシステムを基盤として、家庭用固定電話機から「4. 話したい」ボタンを24時間365日押せる体制を整備し、地域の互助機能の組織化を図ることにより、高齢者の身体的・心理的異変や、買い物・外出などの生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制を開発し、その有効性を検証するとともに、持続可能な取り組み成果を地域に残そうとするものである。

#### (2) 実施項目・内容

- ① 学際的体制の構築と運営
- ② 仮説の構築
- ③ 職際的フィールド体制の構築と運営
- ④ 実証実験
- ⑤ 効果検証
- ⑥ 報告書作成と結果公開
- ⑦ プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討

#### (3) 主な結果

- ① 365日24時間「話したい」ボタンを押せる体制整備  
基盤となるシステムの運用とは別に、夜間・休日のみまもりセンター、及びコミュニティの特性に応じたみまもりセンター（市町村社会福祉協議会の下に位置づけることになるので「サブセンター」と呼称している）を立ち上げ、高齢者が「4. 話したい」ボタンを365日24時間押せる体制を整備した。
- ② コミュニティにおける支援体制の開発  
各フィールドで、民生委員協議会・町内会等と協議を重ね、問題意識の共有化を図り、協力意向を得て、生活支援方策の開発を行った。
- ③ 高齢者の身体的・心理的異変や、生活支援に対応できる情報の流れの整備  
独居高齢者の異変把握のために、人感センサーと緊急通報システム、及びおげんき発信を使い分ける方法と、地域のネットワークにおける情報共有方法を検討した。滝沢地区においては、緊急通報システムとおげんき発信の一体化の実験も開始した。
- ④ 各フィールドにおける社会実験の効果検証（事前調査及び半年後の中間調査）を行った。

## 3. 研究開発実施の具体的内容

### (1) 研究開発目標

本プロジェクトが解決すべき問題として対象とするのは、「高齢者の社会的孤立」である。この背景には、長寿化・家族の変容などにより、独居高齢者の増加、そのなかでも後期高齢期の一人暮らしの増加があるが、特に岩手県を含む北東北は過疎化・高齢化の進展

により、コミュニティ全体が高齢化し地域社会の支えあう関係が脆弱化している。これに加えて、高齢者の遠慮がちな生活様式や意識的な要因が背景となり、高齢者の社会的孤立の問題が重複・複合化している。

社会的孤立は「孤独」の問題や「生活支援ネットワークの欠如」といった問題を引き起こす。孤独の問題の指標の1つに「自殺」があるが、北東北は全国的に比較しても自殺率が高い。本プロジェクトでは自殺防止も解決すべき問題としている。生活支援ネットワークの欠如の問題は、公共交通機関が未整備の過疎地や地方都市のいわゆる“買い物難民”等である。エレベーターのない集合住宅や空洞化した都心に居住している高齢者も同様である。本プロジェクトでは、こうした社会的孤立が引き起こす問題も、解決したいと考えている。

高齢者の社会的孤立を解消するためには、その背景となっている「高齢者の遠慮感やそれによりもたらされるライフスタイル」や、「コミュニティの支えあう関係の脆弱化」も問題の対象としてアプローチする必要がある。

高齢者の社会的孤立の問題は、人口減が著しい過疎地ではすでに顕著になっているが、地方都市においても今後の急速な高齢化に伴い大きな問題になることは明らかである。特に、大型店の郊外への進出に伴い商業機能が空洞化しはじめている都心においては、マンションや市営住宅などの集合住宅を中心として顕在化してきている。また、高度成長期に開発されたニュータウンの人口減・高齢化は近年著しくなっており、孤立死も増加している。

高齢者の社会的孤立とその背景及び影響をそれぞれ問題としてとらえる根拠は、岩手県立大学が岩手県等と連携し取り組んできたICTを活用した見守りシステム構築の実証実験と調査において、一定の成果を得られていることも根拠となる。毎日の能動的な“おげんき”発信は高齢者の遠慮がちな心理やライフスタイルを変容し、コミュニティにおける見守りの意識化や情報の共有は、地域の互助機能の再構築につながってきている。

こうしたことを背景として、プロジェクトでは、独居高齢者を主とする高齢者の社会的孤立の問題に対応し、生活支援型のコミュニティづくりの実証的検証を目指し、これまで岩手県立大学で岩手県等と連携し取り組んできたICT（情報通信技術）を活用した高齢者安否確認見守りシステムを基盤とし、岩手県立大学5学部を中心とする研究者18名による7つの研究グループによるプロジェクト体制を構築し、高齢化の進展する岩手県内地域の現状と生活支援ニーズを調査し、科学的根拠に基づき分析・把握し、仮説検証を行う。

この学際的研究メンバーが、行政（岩手県・盛岡市・滝沢村）・社会福祉協議会（岩手県社協・盛岡市社協・宮古市社協川井支所・滝沢村社協）との連携のもと、4つのフィールド（都心型・ニュータウン型・郊外スプロール型・限界集落型：図2参照）における民生委員協議会や社会福祉・医療の専門的な機関・組織、町内会などの住民組織やボランティア組織、宅配便や配食サービスなどのサービス提供事業者、及び老人クラブなど的高齢者相互支援型の団体、さらに大学生によるボランティア組織など、地域の多様な関与者の協働による職歴的な体制で実証実験を行う。

実証実験は、家庭用の電話機から「4. 話したい」ボタンを24時間365日押すことができる体制を整備し、地域の互助機能の組織化を図ることにより、高齢者の身体的・心理的異変や買い物・外出などの生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制を開発し、その有効性を検証し、持続可能な取り組み成果を地域に残そうとするものである。

実証実験の効果と評価を測定するための指標は、研究グループごとに仮説をもとに選定するが、フィールドごとの検討会議やプロジェクト全体会議・シンポジウム・ワークショップ等においても検討・検証することで、学際的・職際的知見の体系化を図り、持続可能な取り組みへとつなげていくことを目標とする。また、本プロジェクトの成果は、青森県社会福祉協議会や横浜市公田団地の取り組みと連携しているが、さらに他地域へも広報し広く理解を促すことにつなげていくことを目指す。

図1が実証実験全体の概念図である。

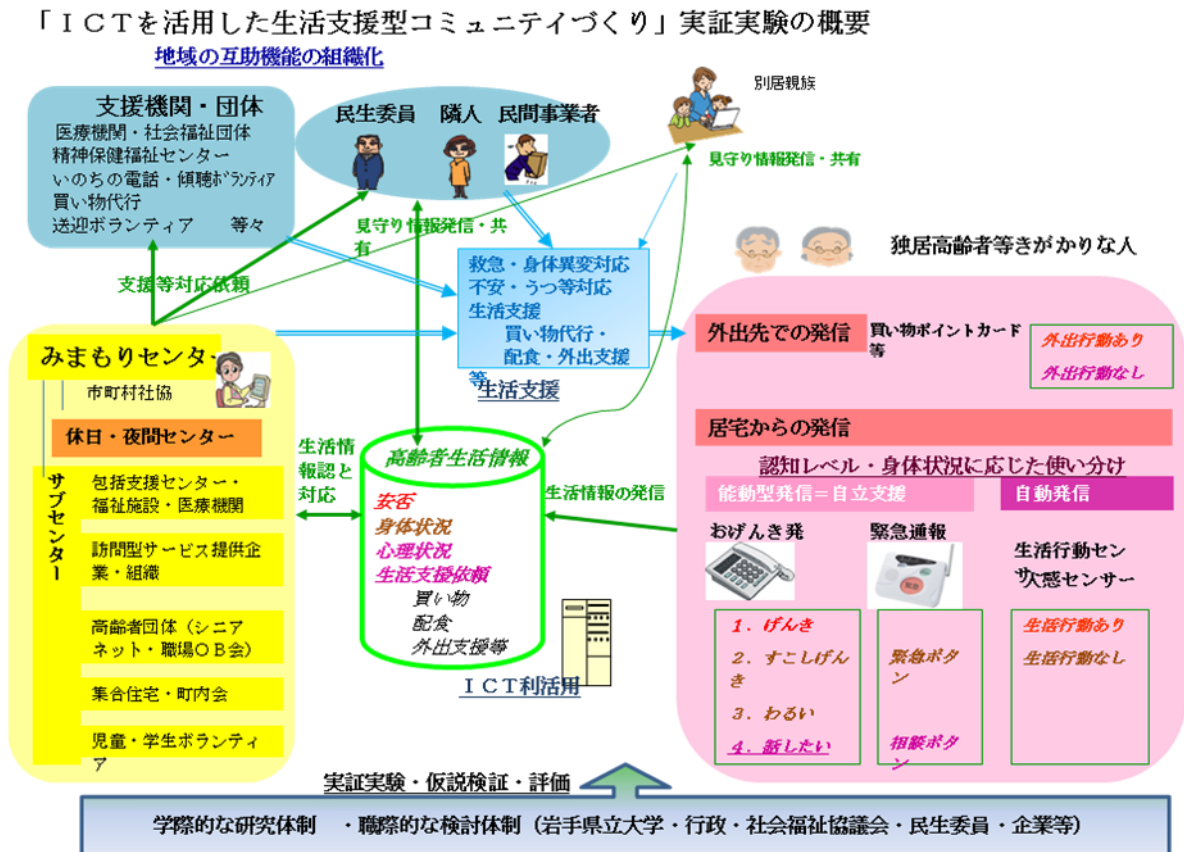


図1. 実証実験全体の概念図

## フィールド



図2. フィールドの場所

### (2) 実施方法・実施内容

当初の計画表に記した7項目の実施方法と成果創出の関係は、図3に示す通りである。平成23年1月の雪害と、3月の東日本大震災の影響で、全体の計画の見直しを行った。当初計画と見直し後の予定は、次図の「見直し後」の通りである。

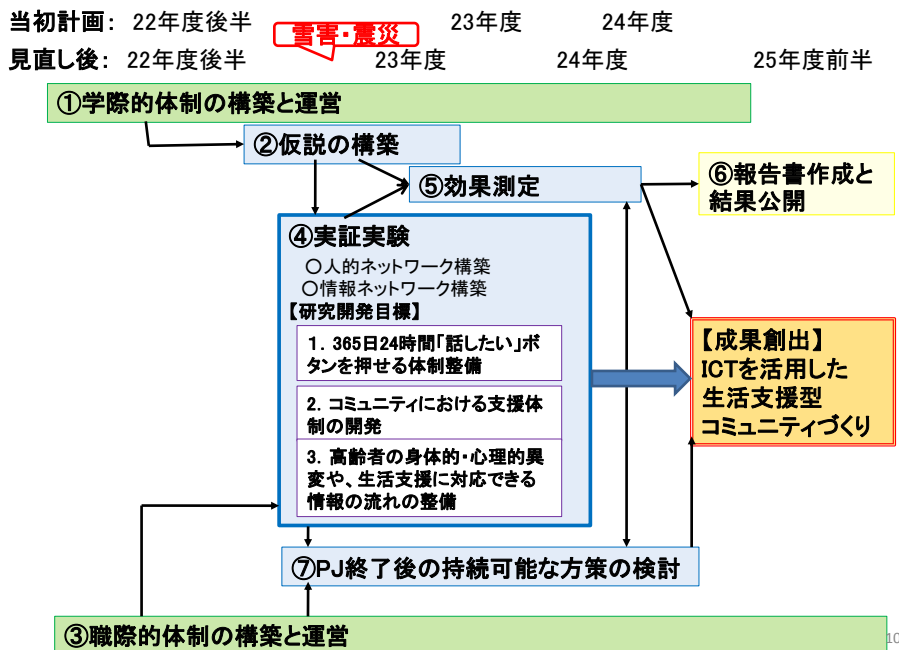


図3. 研究開発の実施と成果創出の流れ

以下、上記した方法①から⑦ごとに、平成23年度の実施内容を記す。

#### ① 学際的体制の構築と運営

研究開発実施者全員で構成する全体会議を1カ月半に1回開催し、プロジェクト全体の情報共有を行った。また、高齢者自立支援策とコミュニティ支援策、及びICTを活用した高齢者の生活支援策の3つの研究グループは、全体会議に対応しそれぞれの研究会を開催した。

#### ② 仮説の構築

高齢者自立支援策とコミュニティ支援策の2つの研究グループは、社会実験を通して高齢者とコミュニティの変化を把握するための指標の検討と、事前（ニーズ）調査及び下記する⑤効果検証方法の検討と、④実証実験の設計を実施した。

#### ③ 職際的フィールド体制の構築運営

持続可能なサービス提供の在り方研究グループで検討し、岩手県・岩手県社会福祉協議会、4フィールドの行政・社会福祉協議会、みまもりセンターを依頼する機関等の、地域の多様な関与者を交えた研究会を2回開催した。プロジェクトの進捗状況を提示し情報の共有化を図るとともに④実証実験への協力体制を構築した。計画書の段階ではこの研究会を月1回開催としていたが、東日本大震災により行政や社会福祉協議会は沿岸支援に注力したため、2回の開催に集約した。

#### ④ 実証実験

##### (ア) 人的ネットワーク構築

##### ア) みまもりセンターの運用

基盤となる高齢者安否確認見守りシステムでは、市町村社会福祉協議会がみまもりセンターとなっている。本プロジェクトでは、365日24時間「話したい」ボタンを押せる体制を整備するために、夜間・休日のみまもりセンターと、コミュニティの特性に応じたサブセンターを開設した。

夜間・休日の見守りセンターを青森県社会福祉協議会に開設した。

また、コミュニティの状況に応じた見守りセンターを、滝沢地区では学生ボランティアセンターに、松園地区では社会福祉法人育心会介護支援センターに、桜城地区では盛岡駅西口包括支援センターに開設をし、見守りと生活支援を行うための準備を行った。

また、4フィールドそれぞれの民生児童委員協議会や町内会等と話し合いを重ね、プロジェクトの問題意識を共有していただき、協力者（高齢者）の選定を重ねた。

##### イ) 地域の互助機能の組織化・コミュニティにおける支援体制の開発

4つのフィールドにおいて、それぞれの民生児童委員協議会やみまもりセンター等の関与者と話し合いを重ね、地域の互助機能の組織化と支援体制の開発を行った。

##### (イ) 情報ネットワークの構築・運用

##### ア) 見守りサブセンターにおけるシステム運用

4フィールドのサブセンターのシステム運用を行った。

##### イ) コールセンター対応機能

おげんき発信の24時間・365日対応の実現に向けて、休日・夜間対応のコールセンターを設置することに対応するため、おげんきシステムと連携して稼働するコールセンター向けのサブシステムを平成22年度に整備し、平成23年度から運用している。

このシステムは夜間等の4番（はなしたい）ボタンをコールセンターに転送するとともに、発信者の特徴的な情報をコールセンター職員に同時に送信・表示することができる。この仕組みによりコールセンターでの高齢者対応をより有効にすすめることが可能となった。

り) 生活行動感知センサー等によるみまもり試行への取り組み

これまで取り組んできた高齢者の能動的行動である電話機利用による“おげんき”発信は、一定層では加齢にともない発信が困難になり、安否を確認する代替手段が必要となることが認識されていた。そこで人感センサーによる安否確認に着目し、この課題に対応し、多様な安否確認システムを整備することとした。また、センサー導入に関連してフィールドでの情報収集を進める中で、加齢の進行に伴う補完する手段としての活用ではなく、能動的なおげんき発信の未発信者の動静把握にセンサーを活用できないかとの提案があり、その対応に係る検討も合わせて実施することとした。

平成22年度には生活行動感知センサーの開発と情報管理システムの設計を行い、おげんき発信未発信者の動静確認へのセンサー適用に関する基礎的検討と、川井地区等の解放型住宅でのセンサー利用の適否の検討と情報伝送手段のサーベイを行ったが、それをもとに平成23年度にはセンサー設置によるみまもりの試行に取り組んだ。

1ケースは盛岡市桜城地区における4階建の集合住宅に平成23年9月から人感センサー2か所・通過センサー1か所・生活行動センサー1か所を設置し稼働を開始した。1ケースは川井地区で解放型住宅でのセンサー利用の適否を検討するために、人感センサー2か所・マイクロ波ドップラーセンサー1か所・生活行動センサー1か所を9月から設置し、センサー調整作業を経て11月から稼働を開始した。さらに1ケースは、川井地区でおげんき発信が発信されない場合の動静確認を目的として、人感センサー1か所・マイクロ波ドップラーセンサー1か所・生活行動センサー1か所を設置し、11月から稼働を開始した。

⑤効果検証

平成22年度から検討をしてきた指標をもとに、効果検証を行った。平成23年度までに実施した調査は、次表に示す通りである。

おげんき発信利用者である協力者（モニター）を対象として、半年ごとの調査を2回（第1期、及び第2期）実施した。また、川井地区においては、利用者のサロンにおいて個別面接聴取を実施した。

また、地域の見守る側の調査としては、滝沢地区をフィールドとして民生児童委員を対象とした量的（悉皆）調査と質的調査を実施した。

住民意識調査については、当初、盛岡市松園地区で実施する予定であったが、松園地区では多くの調査が実施され他大学の社会実験を伴う調査も入っていることから、本プロジェクトにおける実証実験の効果検証としては他地区のほうが望ましいと判断し、モニター数が多く行政・社会福祉協議会の協力体制がとれている滝沢地区を対象とすることに予定を変更した。平成23年度は震災の影響があり、住民意識調査を実施するには不適切な環境でもあったことから、平成23年度は調査の企画と準備を行い、平成24年度実施に計画を変更した。

表1. これまでに実施した調査一覧

調査名	目的	調査対象	実施方法	調査時期	回収状況
ひとりぐらし高齢者の調査（第1期） （おげんき発信モニター調査）	おげんき発信をするなどこのプロジェクトに関与することによる変化と利用者評価を把握することを目的として、事前調査を実施する。	モニター 川井：32名 滝沢：43名 （社協：23名、川前：20名、一体化：－） 松園：20名 桜城：20名	訪問面接聴取（他記式質問紙調査）	平成23年5月～9月	115件
ひとりぐらし高齢者の調査（第2期） （おげんき発信モニター調査）	おげんき発信をするなどこのプロジェクトに関与することによる変化と利用者評価を把握することを目的として、半年に1回の調査を実施する。	モニター 川井：11名 滝沢：91名 （社協：56件、川前：11名、一体化：24名） 松園：17名 桜城：18名	訪問面接聴取（他記式質問紙調査）	平成23年11月～2月	163件
高齢者の社会的孤立を防ぐ地域ネットワーク形成に関する調査 （滝沢村民意識調査）	滝沢村民のプロジェクト評価を得ることと、交通手段などの生活実態を把握することを目的とする。	市制フォーラム参加の滝沢村在住者	集団配布・集団回収（自記式質問紙調査）	平成23年8月20日	回収：209件 ※うち24件は村外在住者で集計除外
滝沢村民生児童委員の活動等に関する調査 （滝沢村民生委員悉皆調査）	滝沢村民生児童委員の活動実態や意識を把握し、滝沢村・滝沢村社会福祉協議会と連携して進めている「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」プロジェクトの今後の運営に資する。	滝沢村民生児童委員全91名	集団配布・集団回収（自記式質問紙調査）	平成24年1月11日（水）	79件 （回収率6.8%）
滝沢村民生児童委員の活動等に関する調査 （滝沢村民生委員ヒアリング調査）		上記調査の回答において、「ヒアリング調査協力可能」と回答した滝沢村民生委員	詳細面接聴取（ヒアリング）	平成24年1月～3月	14件 ※対象のうち1件は入院中のため、来年度実施予定
川井地区交通利便性を高めるための予備調査 （川井L友サロン調査 1回目）	川井地区の高齢者（おげんき発信利用者）を対象に、交通の利便性を高めるための方策検討を目的とした。	L友サロン参加の川井地区おげんき発信利用者	個別面接聴取（他記式質問紙調査）	平成22年12月8日（水）	9件
L友サロン参加者インタビュー （川井L友サロン調査 2回目）	「3. わるい」ボタンと「119番」の使い分けに関する意識と実態を把握することを目的とした。	L友サロン参加の川井地区おげんき発信利用者	個別面接聴取（他記式質問紙調査）	平成24年3月1日（木）	20件（回収100%）



## ⑥ 報告書作成と結果公開

平成23年度は、プロジェクト開始時点からの取り組みと調査結果を中心とする報告書をまとめた。

震災の影響で、フィールドにおける大規模な成果報告の場をもつことができなかったが、滝沢村においては8月20日に開催された市制フォーラムでそれまでの取り組みを報告し、フォーラム参加者の評価調査も実施した。また、いずれのフィールドにおいても、民生児童委員協議会には効果検証の取り組み前に説明をし、効果検証結果についても中間的な段階で報告をしている。平成24年度は、滝沢地区においてフォーラムないしはワークショップを開催し、取り組み結果の公開と広報を図る予定である。

## ⑦ プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討

③に記したように、地域の多様な関与者との研究会を2回開催し、問題意識の共有化と協力意向の醸成を図った。

## (3) 研究開発結果・成果

### ① 365日24時間「話したい」ボタンを押せる体制整備

基盤となるシステムの運用とは別に、夜間・休日のみまもりセンター、及びコミュニティの特性に応じた、みまもりセンター（市町村社会福祉協議会の下に位置づけることになるので「サブセンター」と呼称している）を立ち上げ、高齢者が「4. 話したい」ボタンを365日24時間押せる体制を平成22年度から整備し、平成23年度は全フィールドで運用を行った。

### ② コミュニティにおける支援体制の開発

コミュニティごとの特性に応じたサブセンターを立ち上げ、民生委員協議会・町内会等と生活支援方策の開発に着手した。その一覧は表2の通りである。

滝沢地区においては、このプロジェクトが開始する前からみまもりセンターを実施している滝沢村社会福祉協議会以外に、緊急通報システム（滝沢村が㈱アイネットに委託）の空きボタンにおげんき発信を一体化（図4参照）することによる社会福祉協議会第2みまもりセンターを設置し、また、岩手県立大学の学生ボランティアセンターとの連携による川前みまもりセンターの3つの体制を構築した。

川井地区は過疎化・高齢化が進展しているために、住民による相互支援が困難であることから、当初の計画では宮古市社会福祉協議会川井支所がセンター機能の全てを担う予定であった。しかし、他地区での取り組みをみた社協職員からの民生委員への働きかけにより、門馬地区において米屋を営む民生委員が、自宅をサブセンターとすることを引き受けてくださった。もともと家業の1つとして買い物代行支援を行っていたことから、それとの連携が開始された。

盛岡市松園地区においては、社会福祉法人育心会がサブセンターとなり、民生委員と連携するとともに、社会福祉法人が盛岡市から受託している配食や緊急通報、社会福祉法人が実施している有償の家事援助等と連携する体制を運用している。

盛岡市桜城地区においては、盛岡駅西口地域包括支援センター（盛岡市社会福祉協議会が受託）がサブセンターとなり、民生委員と連携し、見守り体制を運用している。集合住宅が多い地区であることから、マンションの管理人室をサブセンターとしてマンション住民を見守る方策や、宅配便による買い物代行との連携を検討しているが、実施は平成24年度となる。

表2. フィールドごとの支援体制

地域	地域性	みまもりセンター（モニター数）	生活支援の方策
滝沢	郊外スプロール型 人口5万人の村。岩手県立大が立地し、行政の協力度が高い	社会福祉協議会（59）※	民生委員との連携、有償・無償のサービス連携
		社協第2みまもりセンター（23）※	緊急通報との一体化を図り、民生委員による生活支援と連携
		川前みまもりセンター（20）※	学生ボランティアセンターの見守りや雪かき支援等と連携
		小計（102）※	
川井	過疎・高齢化進展型 旧川井村。東京23区の面積に約3千人居住。高齢化率40%超。	社会福祉協議会支所（37）【2】	民生委員によるサブセンターができ、家業（米屋）による買い物代行支援。患者送迎バス等との連携で交通弱者への支援策を検討中。
松園	ニュータウン型 昭和40年代から開発された人口約2万人の盛岡市郊外の団地	社会福祉法人育心会（20）	民生委員との連携。社会福祉法人が受託している配食・ホームヘルパーによる生活支援と連携。
桜城	都心型 盛岡駅前集合住宅を中心に孤立死対策に取り組んでいる地域	盛岡駅西口地域包括支援センター（18）※【1】	民生委員との連携。今後は、マンション管理人室をみまもりセンターにする案や、宅配便による買い物代行との連携も検討中。盛岡市と市営住宅でのセンサー実験開始。
合計		（おげんき発信177） ※夜間休日青森転送120 【センサー3】	

注1) ( ) はおげんき発信のモニター数、【 】はセンサーの実施数である。

注2) ※は夜間休日の青森転送を実施分。

### ③ 高齢者の身体的・心理的異変や、生活支援に対応できる情報の流れの整備

独居高齢者の異変把握のために、人感センサーと緊急通報システムと“おげんき”発信を使い分けと、地域のネットワークにおける異変情報の共有を検討した。また、生活支援ニーズ等に対応するために、情報システムを整備した。

各フィールドごとの体制と情報の流れは、図5から図8に示す通りである。



図4. 滝沢村における緊急通報システムとおげんき発信の一体化

滝沢(郊外スプロール型)における社会実験

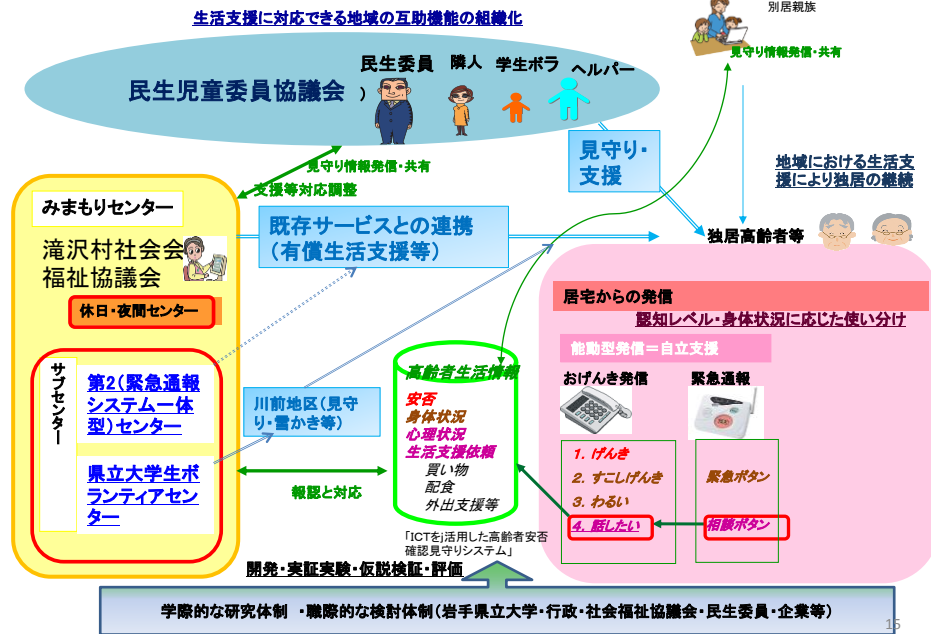


図5. 滝沢地区における生活支援と情報の流れ概要

### 川井(過疎・高齢化進展型)における社会実験のデザイン

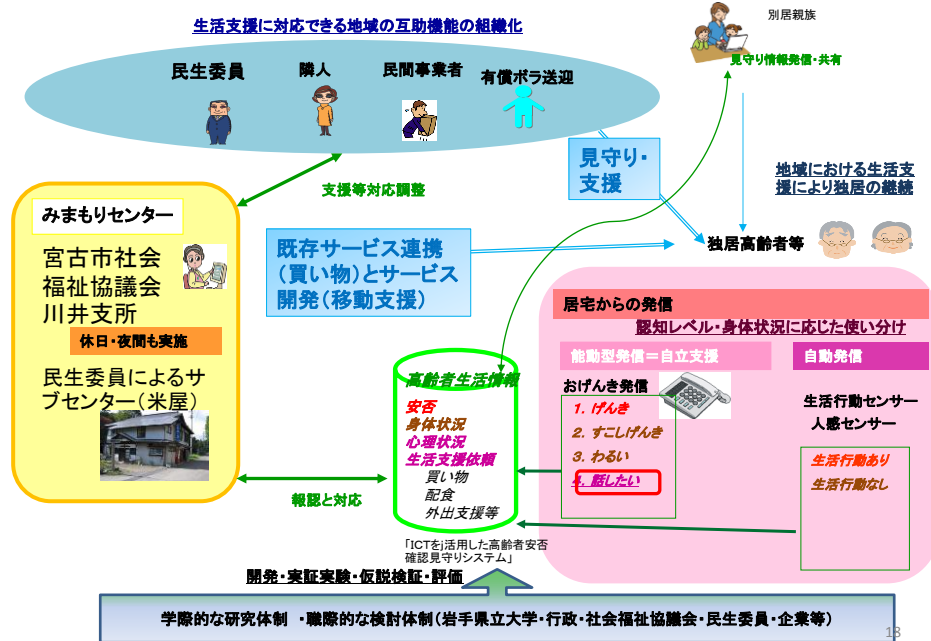


図6. 川井地区における生活支援と情報の流れ概要

### 松園(ニュータウン型)における社会実験のデザイン

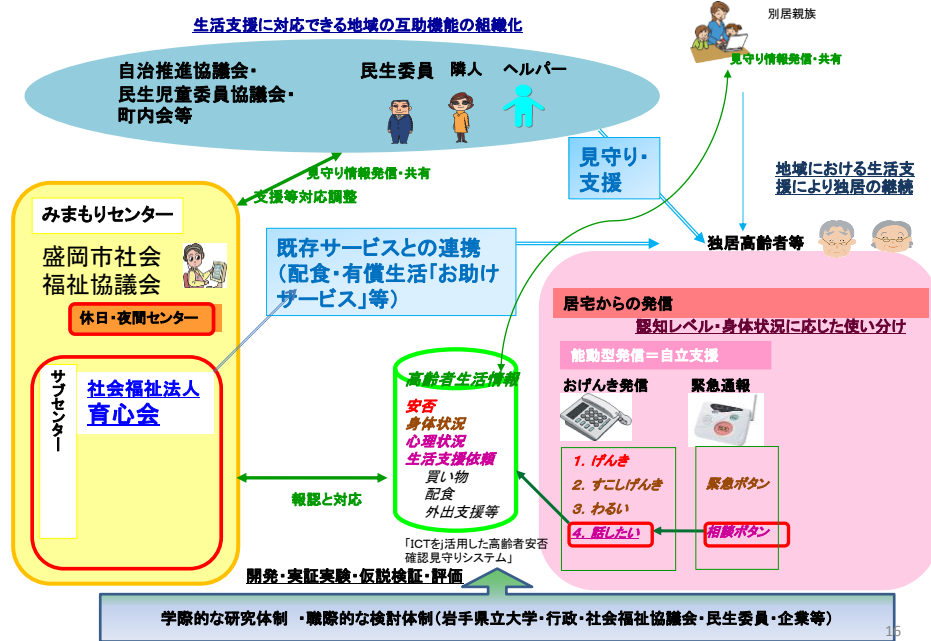


図7. 松園地区における生活支援と情報の流れ概要

### 桜城(都心型)における社会実験のデザイン

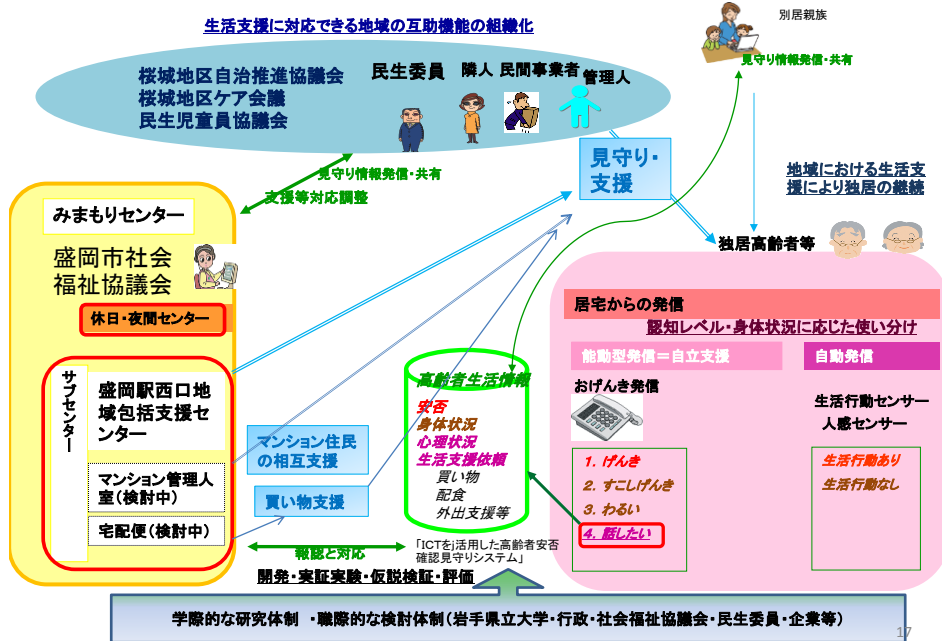


図8. 桜城地区における生活支援と情報の流れ概要

#### ④ フィールドごとに確認している効果と課題

①から③は、アクションリサーチの中間の成果でもあり、方法でもある。このような生活支援と情報の流れを様な関与者とつくり上げながら確認をしているフィールドごとの効果と課題は、表3に示す通りである。

滝沢地区においては、集中的な取り組みの進展が大きい。1つの効果は民生委員の理解が進み、民生委員によるサロンでのおげんき発信の説明・勧誘や効果確認が行われていることである。図9は民生委員の自宅サロンの様子であるが、6名のおげんき発信の利用を11月から開始し、サロンにおいてプロジェクト員がその効果を確認し、交流をしてきている。また、緊急通報システムとの一体型利用者は、これまでおげんき発信を行ってきた高齢者に比較し要支援・要介護度が高く、独居の限界を引き伸ばす効果がみられるため、平成24年度には詳細分析を行う予定である。さらに、川前地区における岩手県立大学の学生ボランティアによる支援との連携は、見守りだけではなく、図10に示すように雪かきが実施され始めている。

表3. フィールドごとの効果と課題の概要

地区	効果	課題
滝沢	集中的取り組みの進展大。 ①民生委員によるサロン等の効果 ②緊急通報システム一体化（独居の限界を引き伸ばす可能性があり） ③川前：学生ボラセンと民生委員の活動連携	①生活支援型サービスの開発 ②町内会・老人クラブ等、地域づくり活動との連携 ③地域福祉関連事業（マップづくり・ふれあいサロン等）との連携
川井	（想定外の）効果 ①民生委員（米屋）サブセンター ②一戸建てにおけるセンサー活用 （想定外の）課題 ①「『3悪い』を押すと救急車」 ②「死んでも『3悪い』押したくない	①生活支援サービスの開発（NPO 法人川井げんき社との連携）
松園	社会福祉法人育心会の他サービス（配食・緊急通報等）とのつながりができた	①生活支援サービスとの連携 ②地域づくりとの連携
桜城	地域包括支援センターと民生委員のつながりができた	①マンション等での展開 ②生活支援サービスとの連携 ③地域づくりとの連携



図9. 民生委員の自宅サロン（カトレア会）でのおげんき発信利用者の様子



図 10. 学生ボランティアによる川前の“おげんきさん”宅への雪かき支援 (H24.03.15)

#### (4) 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
23. 04. 13	JST 畑氏来訪・説明	地域連携棟研究室 I	JSTへの被災状況・プロジェクトへの影響説明
23. 04. 13	全体会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 04. 14	畑氏（滝沢・松園・県庁等）	滝沢、松園、岩手県庁	JSTへのフィールド状況説明
23. 04. 15	畑氏（川井・宮古・山田）	川井、宮古、山田	JSTへのフィールド状況説明・被災地訪問
23. 04. 21	佐々木先生・田中先生打ち合わせ	県立大ソフトウェア情報学部 I S 研	復旧・復興支援策検討
23. 05. 10	アイネット㈱打ち合わせ	滝沢村 IPU イノベーションセンター	「おげんき発信」の復興支援策検討。※
23. 05. 12	桜城地区自治推進協議会にて説明	桜城公民館	桜城地区自治推進協議会にて説明、盛岡市社会福祉協議会泉館氏に実施内容依頼
23. 05. 13	飯館村・福島出張	飯館村役場・アイネット㈱本社	「おげんき発信」を緊急通報とともに携帯電話に実装。※
23. 05. 16	第 2 グループ会議	地域連携棟会議室	松園でのコミュニティ調査に関する打ち合わせ

23.05.19～ 05.27	松園事前調査（第一次）実施	松園	事前調査の実施
23.05.21	松園育心会打ち合わせ	第二松園ハイツ	みまもりサブセンター業務に関する打ち合わせ
23.05.23	滝沢村・滝沢村社会福祉協議会打ち合わせ	滝沢村・滝沢村社会福祉協議会会議室	滝沢における緊急通報システム一体化を含めた今後の進め方の検討
23.05.24	岩手日報取材	地域連携棟相談室	飯館村での支援について取材※
23.05.25	松園地区コミュニティに関するヒアリング・視察	松園活動センター	民生委員協議会、町内会連合会、松園地区自治推進協議会へのヒアリング
23.05.27	第4グループ会議	IS研サーバ室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23.05.30	第3グループ会議	社会福祉学部棟第一会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23.05.30	青森県社会福祉協議会打ち合わせ	地域連携棟会議室	夜間休日センター、及び復興支援研究に関する打ち合わせ
23.05.30	岩手県医療福祉情報化コンソーシアム講演会	アイーナ会議室	プロジェクト内容広報
23.05.30	第2グループ会議	アイーナキャンパス	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23.05.31	全体会議	社会福祉学部大会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23.06.01	JSTアドバイザー会議出席	JST会議室	プロジェクト進捗状況と震災に伴う計画変更に関する説明
23.06.03	アイネット打ち合わせ	滝沢村IPUイノベーションセンター	「おげんき発信」の復興支援策検討。※
23.06.05	松園民生委員協議会会長和野様打ち合わせ	松園活動センター	松園地区での進捗状況説明と検討
23.06.05	桜城地区説明書・同意書届け	アイーナ	及川会長と桜城地区での進め方検討
23.06.06	ボランティアセンター進め方検討	ボランティアセンター	今後の進め方の作業検討
23.06.08	滝沢フィールド評価調査	滝沢村社会福祉協議会	民生委員協議会座談会・滝沢村社会福祉協議会佐藤氏ヒアリング
23.06.08	㈱ソキエセンサー設置事前調査	川井・モニター宅	事前調査の実施
23.06.09	第5グループ会議	社会福祉学部談話室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23.06.14	滝沢地区事前調査調査員説明会	社会福祉学部講義室	調査員への調査実施方法の説明
23.06.15	滝沢地区事前調査	滝沢村	事前調査の実施
23.06.20	県立大学ボランティアセンター打ち合わせ	ボランティアセンター	今後の川前地区見守り検討
23.06.24	川井地区事前調査調査員説明会	社会福祉学部講義室	調査員への調査実施方法の説明



23.06.25	川井地区事前調査	川井	事前調査の実施
23.06.21～ 07.04	松園地区事前調査 (第二次)	松園	事前調査の実施
23.06.29	岩手県社会福祉協 議会打ち合わせ (第4・5グループ)	地域連携棟会議 室	今後の進め方検討
23.07.04	川井地区センサー 設置	川井	モニター住民宅へのセンサー設置 と説明
23.07.04	第4グループ会議	IS研サーバ室	月次会議(進捗状況確認と作業検 討)
23.07.05	予防医学協会打ち 合わせ	予防医学協会	今後の連携策検討
23.07.05	第2グループ会議	地域連携棟相談 室	月次会議(進捗状況確認と作業検 討)
23.07.05	全体会議	地域連携棟会議 室	月次会議(進捗状況確認と作業検 討)
23.07～08.	桜城地区事前調査	桜城	事前調査の実施
23.07.07	宮古市役所・田老 診療所訪問	宮古市役所、田老 診療所	復興支援における社会技術転用の 可能性検討※
23.07.08	NICT 打ち合わせ	地域連携棟・相談 室	復興支援における連携可能性の検 討※
23.07.09	ヤマト運輸打ち合 わせ	大槌	まごころ宅急便の実態把握と連携 可能性の検討※
23.07.11	滝沢村睦大学と県 立大公開講座連携	滝沢村公民館	高齢者にプロジェクト取り組みに ついて講演
23.07.11	桜城地区民生委員 協議会会長と打ち 合わせ	アイーナ	桜城地区取りくみ方策の検討
23.7.13	第3グループ会議	社会福祉学部第 一会議室	月次会議(進捗状況確認と作業検 討)
23.07.14	川前地区民生委員 との協議	地域連携棟会議 室	川前における重点的取り組みにつ いて検討
23.07.19	JST 領域アドバイ ザー打ち合わせ	JST	今後の進め方について教示を受け る
23.07.20	アイネット㈱打ち 合わせ	滝沢村IPUイノー ベーションセンタ ー	飯館村からの避難者におけるおげ んき発信利用の調査方法検討※
23.07.25	大槌社協・釜石市 医師会等打ち合わ せ	釜石市医師会館	復興への社会技術の転用に関する 説明※
23.07.26	アイネット㈱・滝 沢村イノベ担当 打ち合わせ	滝沢村IPUイノー ベーションセンタ ー	飯館村からの避難者におけるおげ んき発信利用の調査方法検討※
23.07.27	盛岡駅西口包括支 援センター打ち合 わせ	盛岡駅西口包括 支援センター	システム操作に関する説明と検討
23.07.28	ヤマト運輸打ち合 わせ	地域連携棟相談 室	復興支援での連携策検討※
23.07.28	川前地区利用者・ 民生委員への説明 会		川前地区利用者・民生委員へのお げんき発信の説明

23. 07. 30	日本社会福祉学会 東北部会第11回研 究大会研究報告	福島大学	飯館村における取り組みに関する 研究報告※
23. 08. 02	緊急通報とおげん き発信一体化に関 する打ち合わせ	地域連携棟会議 室	滝沢村・滝沢社協・アイネット・ 県立大が一体化に関する打ち合わ せ
23. 08. 04	JST シンポ震災か らの復興を「活力 ある街・地域創り につなげる」	仙台	植田先生パネラー
23. 08. 10	日本福祉介護情報 学会理事来訪、大 槌社協訪問	大槌町社会福祉 協議会等	復興への社会技術転用に関する打 ち合わせ※
23. 08. 17	松園育心会訪問	第二松園ハイツ	進捗状況に関する打ち合わせ
23. 08. 19	松園民生委員協議 会長訪問	松園	進捗状況に関する打ち合わせ
23. 08. 19	盛岡市復興支援セ ンター打ち合わせ	盛岡市復興支援 センター	復興支援に関する連携策打ち合わ せ※
23. 08. 20	滝沢村主催「市制 フォーラムたきざ わ」	岩手県立大学	22年度調査及びプロジェクト内容 についてプレゼンテーション
23. 08. 23	滝沢村社会福祉協 議会打ち合わせ	滝沢村老人福祉 センター	進捗状況と連携方法の確認
23. 08. 23	田老で医師・保健 師・社協・IT ボラ 等打ち合わせ	田老グリーンピ ア	復興支援に関する連携策検討※
23. 08. 24	大槌で社協・生活 相談指導員等打ち 合わせ・釜石で 市・社会福祉法人 等打ち合わせ	大槌町社会福祉 協議会・釜石市医 師会館	復興支援に関する連携策検討※
23. 08. 26	第5グループ会議	アイーナ会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検 討）
23. 08. 26	岩手県保健福祉部 長・企画室に説明	岩手県庁	プロジェクト進行状況説明・協力 依頼
23. 08. 30	大学広報誌取材	プロジェクト室 等	広報
23. 08. 30	全体会議	地域連携棟会議 室	月次会議（進捗状況確認と作業検 討）
23. 07～08.	滝沢二次調査	滝沢	二次調査の実施
23. 07～08.	松園二次調査	松園	二次調査の実施
23. 09. 07. ～ 09. 09	国際会議 FIT 報告 （佐々木先生等）		研究成果報告
23. 09. 21～ 09. 23	国際会議報告（直 井先生）	スウェーデン	研究成果報告
23. 10. 07	NICT 打ち合わせ	地域連携棟会議 室	復興研究連携策検討※
23. 10. 14	全体会議	地域連携棟会議 室	月次会議（進捗状況確認と作業検 討）
23. 10. 14～ 10. 15	JST サイトビジッ ト	地域連携棟会議 室・県庁・滝沢	JSTサイトビジット対応

		村・川井他	
23. 10. 26	滝沢村民生児童委員協議会	滝沢村老人福祉センター	滝沢村民生児童委員協議会地区会長定例会議にて進捗状況報告とおげんきさん確保の協力依頼
23. 10. 26	第2グループ会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11	松園二次調査	松園	二次調査の実施
23. 11. 02	第3グループ会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11. 04	アイネット打ち合わせ	地域連携棟会議室	緊急通報一体化にかかる事項の確認、作業検討
23. 11. 08	第3グループ会議	社会福祉学部談話室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11. 09	滝沢村民生児童委員協議会	滝沢ふるさと交流館	滝沢村民生児童委員協議会中部地区定例会議にて進捗報告とモニター確保の協力依頼
23. 11. 09	滝沢村民生児童委員協議会	ニューシビックセンター	滝沢村民生児童委員協議会南部地区定例会議にて進捗報告とモニター確保の協力依頼
23. 11. 09	滝沢村社協打ち合わせ（ヒアリング）	地域連携棟プロジェクト室	滝沢村社会福祉協議会職員に滝沢村の概要についてヒアリング
23. 11. 10	滝沢村民生児童委員協議会	勤労青少年ホーム	滝沢村民生児童委員協議会北部地区定例会議にて進捗報告とモニター確保の協力依頼
23. 11. 11	第3グループ会議	社会福祉学部談話室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11. 11	全体会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11. 11	第2グループ会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11. 14	振興局打ち合わせ	沿岸広域振興局	復興支援に関する打ち合わせ※
23. 11. 15	滝沢村緊急通報一体化打ち合わせ	滝沢村役場	進捗状況確認と作業検討
23. 11. 16	第4グループ会議	IS研サーバ室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11. 17	第3グループ・滝沢村役場住民協働課打ち合わせ	滝沢村役場	滝沢村自治会・町内会の概要把握
23. 11. 17	大学学生新聞取材	プロジェクト室	プロジェクト広報
23. 11. 18	第5グループ会議	アイーナキャンパス	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
23. 11. 22	小岩井地区民生委員説明会	小岩井公民館	住民対象のおげんき発信説明会と利用希望者への調査協力依頼
23. 11. 22	滝沢村社会福祉協議会打ち合わせ	地域連携棟プロジェクト室	緊急通報一体化にかかる事項の協議
23. 11. 28	ベネッセ取材	地域連携棟会議室	プロジェクト広報
23. 11～12	滝沢二次調査	滝沢	二次調査の実施

23. 12. 02	大槌町打ち合わせ	大槌町社会福祉協議会	和野地区への支援研究打ち合わせ※
23. 12. 07	振興局研修	沿岸広域振興局	沿岸の福祉・まちづくり関係者対象の研修実施
23. 12. 07	滝沢おげんき発信説明会	湯船沢の民生委員自宅	住民対象のおげんき発信説明会と利用希望者への調査協力依頼
23. 12. 10～ 12. 11	JST 領域合宿	国立女性教育会館	JST領域合宿
23. 12. 11	日本福祉介護情報学会第11回研究大会 研究報告	田園調布学園大学	プロジェクト成果に関する研究報告
23. 12. 14	滝沢村民生児童委員協議会	滝沢村老人福祉センター	滝沢村民生児童委員協議会地区会長定例会議にて調査協力依頼
23. 12. 15	ヤマト運輸打ち合わせ	地域連携棟相談室	西和賀等におけるおげんき発信と発注の一体化の取り組み説明と協力依頼※
23. 12. 17～ 12. 18	川井調査	宮古市川井	川井モニター調査の実施
23. 12. 19	滝沢村湯舟沢おげんき発信サロン	湯舟沢の民生委員自宅	「おげんき発信を始めてみて」を議題とした座談会の実施
23. 12. 21	滝沢ニュータウンサロン講話	滝沢村ボランティア活動拠点スマイル・すまいる	住民を対象としたおげんき発信の説明と利用希望者への調査協力依頼
23. 12. 22	ヤマト運輸打ち合わせ	地域連携棟相談室	西和賀等におけるおげんき発信と発注の一体化の取り組み説明と協力依頼※
23. 12. 27	滝沢村民生児童委員協議会 12. 月定例会議	滝沢ふるさと交流館	進捗報告と調査実施、追加調査の協力依頼
23. 12. 22～ 24. 01. 01	滝沢村緊急通報一体化調査実施	滝沢村	緊急通報一体化利用者調査者を対象とする調査実施
24. 01. 06	松園育心会打ち合わせ	第二松園ハイツ	進捗状況説明と検討
24. 01. 11～	滝沢村民生委員悉皆調査実施	チャグチャグホール	滝沢村民生児童委員協議会悉皆質問紙調査の実施
24. 01. 12	第3グループ会議	社会福祉学部経営学科長室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24. 01. 16	大槌町打ち合わせ	大槌町社会福祉協議会・和野地区サポートセンター	血圧測定と一体化した安否確認方法の検証※
24. 01. 18	第4グループ会議	IS研サーバ室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24. 01. 23	第3グループ会議	社会福祉学部談話室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24. 01. 24～ 05. 09	滝沢村民生委員インタビュー	滝沢	民生児童委員対象者へのヒアリング調査実施
24. 01. 25	全体会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24. 01. 25	第2・3グループ会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24. 01. 27～ 01. 28	釜石医師会等打ち合わせ	釜石市医師会館	釜石における復興研究の説明※

24.01.30	「仮設住宅における見守りとコミュニティづくりー釜石市鶴住居における取り組みを事例として」研修会	アイーナ8階会議室	研修会の実施
24.02.01	第3グループ会議	社会福祉学部談話室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24.02.01	JST取材	地域連携棟会議室	JST広報取材の対応
24.02.02	QoL-SNシンポジウム	メルパルク東京	プロジェクト成果に関する研究報告※
24.02.10	集合調査	地域連携棟会議室	川前地区モニター調査の実施
24.02.17～ 24.02.18.	遠隔医療学会	家電会館	プロジェクト成果に関する研究報告※
24.02.22	JST第1回領域シンポジウム	一ツ橋記念講堂	パネラーとして成果方向
24.02.23	NHK取材・田老調査	グリーンピア三陸みやこ	研究成果の広報・モニター調査※
24.03.01	川井L友サロン、調査実施	滝沢冷泉静峰苑	川井L友サロン参加及びモニター調査の実施
24.03.03	地域福祉推進フォーラム	青森県総合社会教育センター	講演・プロジェクト成果の広報
24.03.07	岩手県社会福祉協議会打ち合わせ	岩手県社会福祉協議会	進捗状況等説明
24.03.09	滝沢村打ち合わせ	滝沢村役場	進捗状況等説明
24.03.15	第4グループ会議	IS研サーバ室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24.03.19	全体会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24.03.19	第2・3グループ会議	地域連携棟会議室	月次会議（進捗状況確認と作業検討）
24.03.30	釜石に関する取り組み検討会	鶴住居サポートセンター・釜石市医師会館	釜石の仮設住宅団地における安否情報共有化に関する体制整備※

注) ※は、プロジェクトで開発したり有効性を検証した社会技術を沿岸地域の復興へ資する活動である。プロジェクト費用からの支出はしていないが、普及活動であるのでここに記した。

#### 4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

各フィールドでプロジェクト終了後もその成果が活用されるよう、連携策を進めている。具体的には、みまもりのサブセンターを依頼している滝沢地区では学生ボランティアセンター、桜城地区では地域包括支援センター、松園地区では社会福祉法人育心会のそれぞれの事業との連携である。また、こうした地域の関与者や、行政・社会福祉協議会と問題意識や取り組み成果についての情報を常に共有化しつつ、プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討を具体的に行っている。

また、本プロジェクトで得られた孤立防止とコミュニティづくりの社会技術を、東日本大震災の被災地における仮設住宅等での孤立防止とコミュニティの再構築に活用を始めた。

岩手県立大学地域政策研究センターの復興研究の採択を受け、「被災地におけるICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」プロジェクトを立ち上げ、釜石市鶴住居地区、大槌町和野地区、宮古市田老地区、野田村、及び盛岡市（移動してきた被災者支援）において、それぞれのコミュニティの特性に応じた社会資源を活用した取り組みを平成23年度に開始した。

釜石市鶴住居では、仮設住宅のサポートセンターをみまもりセンターとし、そこに常駐している生活支援相談員（社会福祉士）をみまもり者とし、取り組みを開始した。民生児童委員協議会の新たな地区割りや稼働を待って、みまもり者を拡大していく予定である。ここでは、釜石市医師会等と連携し、仮設住民が測定した血圧のデータもおげんき発信と併せてサポートセンターで活用する取り組みを開始した。第一段階としては、仮設住民の閉じこもり防止のためにサポートセンターまで足を運び血圧を測定し、第二段階では各世帯から血圧等を伝送する仕組みを計画している。また、釜石市仮設住宅連絡支援員という制度も平成24年3月から稼働を始めたために、鶴住居地区を見廻りしている支援員と住民の異変把握情報を共有する取り組みも現在行っている。

大槌町和野地区では、大槌町社会福祉協議会が受託しているサポートセンターをみまもりセンターとし、仮設住民の見守りを行っている。ここでは、携帯電話のみならず固定電話の通信網が復旧が遅れたため、平成23年11月頃からおげんき発信を開始し、1月からは上記の釜石同様に血圧計も設置した取り組みを開始している。

宮古市田老では、グリーンピア田老内に仮設診療所が見守りセンターとなり、自殺念慮の高い患者のみまもりを平成23年9月から開始した。しかし、診療所医師の交代に伴い診療所はこの機能を停止したため、3月からは岩手県立大学のプロジェクト室が日々の安否確認を行っている。今後は、田老で買い物支援事業を行っているNPO法人と連携し田老でのみまもりセンター機能を設置する予定である。

野田村では、本プロジェクトの関与者である青森県社会福祉協議会が、震災後の支援に入ったために、おげんき発信と一体になった緊急通報システムを導入し、青森県社会福祉協議会のセンターが見守りセンターとなる運用を平成23年7月から開始した。

盛岡市では、復興支援センターと連携し、盛岡市に移住してきている被災者の孤立防止策の検討を進めている。

また、小川の科学研究費等により、福島県飯館村から計画的避難をする高齢者を対象として緊急通報システムとおげんき発信ボタンをつけた携帯電話平成23年5月に配布した。この取り組み成果については、日本福祉学会東北部会研究大会で7月の発表も行った。

このように本プロジェクトの成果は、すでに普及展開も同時に行っており、平成24年度は引き続き効果の検証を行う予定である。

## 5. 研究開発実施体制

### (1) 研究代表者及びその率いるグループ

- ① リーダー名：小川晃子（岩手県立大学・社会福祉学部・教授）
- ② 実施項目・プロジェクト実施方針の提示

### (2) 高齢者自立支援策研究グループ

- ① リーダー名：直井道子（桜美林大学大学院・老年学研究科・客員教授）
- ② 実施項目：高齢者の心理・自立度の変化測定・高齢者の自立支援策の仮説検証

(3) コミュニティ支援策研究グループ

- ① リーダー名：狩野 徹（岩手県立大学・社会福祉学部福祉経営学科・教授）
- ② 実施項目：コミュニティの変化測定・コミュニティ支援方策の仮説検証

(4) ICTを活用した高齢者の生活支援策研究グループ

- ① リーダー名：佐々木 淳（岩手県立大学・ソフトウェア情報学部・准教授）
- ② 実施項目：高齢者の生活支援に適応するICT活用方策の提案・システム設計・  
実証実験・評価

(5) 持続可能なサービス提供のあり方研究グループ

- ① リーダー名：細田重憲（岩手県立大学・社会福祉学部・准教授）
- ② 実施項目：公的・民間サービスの継続可能性の検証・制度設計

(6) 復興研究連携検討グループ

- ① リーダー名：植田真弘（岩手県立大学宮古短期大学部・教授）
- ② 実施項目：地域特性に応じた支援策検討

6. 研究開発実施者

研究グループ名：研究代表者及びその率いるグループ

	氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
○	小川 晃子	オガワ アキコ	岩手県立大学 社会福祉学部/ 地域連携本部	教授/副本部長	統括/ 生活支援型コミュニティづくり仮説 構築・検証・評価
	直井 道子	ナオイ ミチコ	桜美林大学大学院 老年学研究科 客員教授	教授	高齢者自立支援方策の仮説構築・検 証・評価
	狩野 徹	カノウ トオル	岩手県立大学 社会福祉学部福祉 経営学科	学科長/教授	コミュニティ支援策仮説構築・検 証・評価
	佐々木 淳	ササキ ジュン	岩手県立大学 ソフトウェア情報 学部	准教授	I C Tを活用した高齢者の生活支援 方策の仮説構築・検証・評価
	細田 重憲	ホソダ シゲノリ	岩手県立大学 社会福祉学部	准教授	持続可能なサービス提供のあり方に 関する仮説構築・検証・評価
	植田 真弘	ウエダ マサヒロ	岩手県立大学 宮古短期大学部/ 盛岡市まちづくり 研究所	学部長・教授/ 所長	都市における生活支援策の検証

研究グループ名：高齢者自立支援策研究グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
○	直井 道子	ナオイ ミチコ	桜美林大学大学院 老年学研究科 客員教授	教授	高齢者自立支援方策の仮説構築・検証・評価
	黒澤 美枝	クロサワ ミエ	岩手県精神保健福祉センター	センター長・精神保健指定医	自殺予防の観点からみた高齢者の自立支援策の検証
	石川みち子	イシカワ ミチコ	岩手県立大学 看護学部	教授	看護支援からみた高齢者の自立支援策の検証
	千田 睦美	チダ ムツミ	岩手県立大学 看護学部	講師	看護支援からみた高齢者の自立支援策の検証
	山田 幸恵	ヤマダ サチエ	岩手県立大学 社会福祉学部 福祉臨床学科	講師	心理支援からみた高齢者自立支援策の仮説構築・検証・評価

研究グループ名：コミュニティ支援策研究グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
○	狩野 徹	カノウ トオル	岩手県立大学 社会福祉学部 福祉経営学科	学科長／教授	福祉のまちづくりの観点からみたコミュニティ支援策の検証
	元田 良孝	モトダ ヨシタカ	岩手県立大学 総合政策学部	教授	過疎・高齢化進展地域における交通支援策の提言
	庄司知恵子	ショウジ チエコ	岩手県立大学 社会福祉学部	講師	社会学の視点からみたコミュニティ支援策の仮説構築・検証・評価
	宇佐美誠史	ウサミ マサン	岩手県立大学 総合政策学部	助手	過疎・高齢化進展地域における交通支援策の検証
	佐藤 俊治	サトウジ ユンジ	盛岡市まちづくり 研究所	共同研究員	都市における生活支援策の検証
	上森 貞行	ウエモリ サダユキ	盛岡市まちづくり 研究所	共同研究員	都市における生活支援策の検証
	渡邊 智裕	ワタナベ トモヒロ	盛岡市まちづくり 研究所	共同研究員	都市における生活支援策の検証

研究グループ名：ICTを活用した高齢者の生活支援策研究グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
○	佐々木 淳	ササキ ジュン	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	准教授	ICTを活用した高齢者の生活支援方策の仮説構築・検証・評価について



					での総括
	山田 敬三	ヤマダ ケイゾウ	岩手県立大学ソフト ウェア情報学部	講師	ICTを活用した高齢者の生活支援 方策の提案と要求仕様の明確化、実 証実験・評価への協力
	高木 正則	タカギ マサノリ	岩手県立大学ソフト ウェア情報学部	講師	上記要求仕様に基づくプロトタイプ システムの設計・構築及び実証実 験・評価

研究グループ名：持続可能なサービス提供の在り方研究ループ

	氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
○	細田 重憲	ホソダ シゲノリ	岩手県立大学 社会福祉学部	准教授	持続可能なサービス提供のあり方に 関する仮説構築・検証・評価
	宮城 好郎	ミヤギ ヨシロウ	岩手県立大学 社会福祉学部	教授	持続可能なサービス提供のありかた （とくに民間サービス）の仮説構 築・検証・評価

研究グループ名：復興研究連携検討グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
○	植田 眞弘	ウエダ マサヒロ	岩手県立大学 宮 古短期大学部／ 盛岡市まちづくり 研究所	学部長・教授 ／所長	復興研究連携の検討と実践

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等

年月日	テーマ	場所	参加人数	目的・内容
23. 05, 12	ミニワークショップ「I CTを活用した生活支援 型コミュニティづくり」	盛岡市立桜 城児童セン ター	桜城地区 自治推進 協議会40 名	桜城地区自治推進協議会にプ ロジェクトの取り組みに対す る理解を深めていただくため に、プロジェクトの説明を行 い意見を聴取した。
23. 12. 2 1	ミニワークショップ「I CTを活用した生活支援 型コミュニティづくり」	滝沢村ボラ ンティア活 動拠点スマ イル・すま いる	滝沢ニュー タウン に居住し ている高 齢者20名	滝沢村のニュータウン居住者 にプロジェクトの取り組みに 対する理解を深めていただく ために、プロジェクトの説明 を行い意見を聴取した。
24. 01. 3 0	研修会：仮設住宅におけ る見守りとコミュニティ づくり	アイーナ会 議室	80名	プロジェクトで開発した社会 技術を、被災地の孤立防止と 見守りに役立てるため、研修

				会を行った。プロジェクトが企画をし、岩手県立大学地域政策研究センターが主催した。
--	--	--	--	--

## 7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

年月日	発表者	テーマ	場所	概要
23.05.20	小川晃子	電話を活用した独居高齢者見守りシステムの状況	アイーナキャンパス学習室	岩手県医療福祉情報化コンソーシアム主催講演
23.07.11	小川晃子	「今日も発信 元気だよ！」共に支えるコミュニティ	滝沢村公民館	滝沢村社会福祉協議会主催：睦大学／岩手県立大学主催：公開講座 滝・地域講座
23.08.20	小川晃子・石川みち子・千田睦美	滝沢村に居住する高齢者の社会的孤立への予防的対処と見守り	岩手県立大学講堂	滝沢村主催 市制フォーラムたきざわー地域の想いとルールを考える：学連携事業研究成果発表
23.08.04	植田真弘	復興ビジョンと広域連携システム	仙台国際センター	JST主催 シンポジウム「震災からの復興を『活力ある街・地域』創りにつなげる
23.12.07	小川晃子	被災地におけるICTを活用した生活支援型コミュニティづくり	岩手県沿岸広域振興居（釜石）	岩手県沿岸広域振興局主催：被災者の閉じこもり防止及び見守りに関する勉強会
24.02.22	小川晃子	平成22年度採択プロジェクト進捗状況報告 「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」 パネルディスカッション「生涯安心して自分らしく住み続けられるコミュニティとは一日本におけるエイジングインプレイスを考える」	一ツ橋記念講堂	JST主催コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン研究開発領域第1回シンポジウム
24.02.22	小川晃子	一人暮らしのお年寄りの社会的な孤立を防ぐために、地域コミュニティによる見守りと支援の新しいあり方を開発する	<a href="http://www.ristex.jp/public/focus/focus_no12.html#profile">http://www.ristex.jp/public/focus/focus_no12.html#profile</a>	JST研究者に突撃取材！No.12

24.02.08	小川晃子・佐々木淳	地域連携プロジェクトで多様な視点を育むー岩手県立大地域連携のプロジェクト	岩手県立大学にて取材を受ける	「大学選択新たな視点；学部の枠を超えた連携で学生の視野を広げる大学・学部」『先生方とともに考える新しい進路指導パートナーVEW21高校板』(株)ベネッセコーポレーション, (332), 44-45.
24.03.04	直井道子	増える一人暮らしーその実情と支援	桜美林大学大学院四谷キャンパス	桜美林大学大学院第2回公開講座『増える老後の一人暮らしーいろいろな備えをー』

### 7-3. 論文発表（国内誌 2 件、国際誌 0 件）

黒澤美枝, 2012, 「第4章 各種イベント自然災害（早期）」『最新医学 別冊 新しい診断と治療のABC70』: 121-127.

直井道子, 2012, 「一人暮らし高齢者とその支援」『都市社会研究』せたがや自治政策研究所, (4): 36-45.

### 7-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- ①招待講演（国内会議 2 件、国際会議 1 件）
- ②口頭講演（国内会議 3 件、国際会議 5 件）
- ③ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 1 件）

年月日	発表者	タイトル	学会名	場所
23.09.01	Takuhide Kkuchi, Keizo Yamada, Masanori Takagi, Michiru Tanaka, Jun Sasaki, Akiko Ogawa	Optimal Auto-calling Scheduler for an Automated Telephone Monitoring System for Elderly People	The 4th EWU-IPU International Exchange Program in Computer Science, Twanka, Eastern	Washington University (米国・ワシントン州)
23.09.07~09.11	菊池卓秀・山田敬三・高木正則・田中充・佐々木淳・小川晃子	電話を用いた自己発信型高齢者見守りシステムにおける再確認アルゴリズムの研究 A Study on Reconfirmation Algorithm in Self-sending Type Monitoring System for Elderly People by Using Tel	情報処理学会第10回情報科学フォーラム	函館大学

		ePhone		
23. 09. 23	直井道子・小川晃子	情報技術は高齢者を幸福にするかー日本の地方における社会実験をもとに Does Information Technology make Elderly People Happier?-Social Experiment in a Japanese Rural Area	スウェーデン・東京大学シンポジウム	ウプサラ大学（スウェーデン）
23. 09. 30	Jun Sasaki, Koki Ito, Keizo Yamada, Masanori Takagi	Proposal of Wellness Support System	Proceedings of The 10th International Conference on Software Methodologies	Tools and Techniques (ロシア・サクトペテルブルグ)
23. 12. 11	高木正則, 佐々木淳, 田中充, 山田敬三, 青澤希, 小川晃子	ICT(情報通信技術)を活用した生活支援型コミュニティづくりの構想	日本福祉介護情報学会第12回研究大会シンポジウム「3.11 何が起こったのかー情報の混乱と活用を検証する」パネラー	田園調布学園大学
24. 12. 10	小川晃子	ICT活用みまもりネットワークはどう機能したかー復旧・復興支援	日本福祉介護情報学会第12回研究大会シンポジウム「3.11 何が起こったのかー情報の混乱と活用を検証する」パネラー	田園調布学園大学
24. 02. 02	小川晃子	被災地でのICT活用生活支援サービスの現場と無線ネットワークへの期待	Qol-Sn研究会第2回シンポジウム	メルパルク東京

24. 02. 03	Jun Sasaki, Takuhide Kikuchi, Masanori Takagi, Keizo Yamada, Michiru Tanaka, Akiko Ogawa	OPTIMAL AUTO-REMINDER-CALLING ALGORITHM FOR SELF- REPORTING TYPE SAFETY MONITORING SYSTEM BY USING TELEPHONE FOR ELDERLY	PEOPLE", HEALTHINF 2012	Vilamoura , Algarve, Portugal
24. 02. 04	Jun Sasaki, Koki Ito, Manato Saikachi, Masanori Takagi, Keizo Yamada	DEVELOPMENT OF A PROTOTYPE WELLNESS SUPPORT SYSTEM FOR ELDERLY PEOPLE	HEALTHINF 2012	Vilamoura , Algarve, Portugal
24. 02. 17 ～ 02. 18	小川晃子	仮設住宅における血圧測定を 活用した見守りとコミュニテ ィづくりの取り組みの提案	日本遠隔医 療学会スプ リングカン ファレンス 2012	全国家電会 館
24. 03. 06	菊池卓秀, 山田敬 三, 高木正則, 佐々木淳, 田中 充, 小川晃子	自己発信型高齢者 安否確認システムにおける自 動確認アルゴリズムの実装方 法	情報処理学 会第74情 報処理学会 第74回全国 大会	名古屋
24. 03. 06	冓真人, 山田敬 三, 高木正則, 佐々木淳	タッチパネル式IP電話を 活用した高齢者ライフサポ ートシステムの開発	情報処理学 会第74情 報処理学会 第74回全国 大会	名古屋

## 7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

### ①新聞報道・投稿

年月日	記事名称	掲載紙
23. 05. 28	お年寄りの安否携帯で簡単に確認 注目の緊急通報システム アイネット始める	福島民友
23. 05. 29	飯館村で高齢者見守りー県立大小川教授ら構築安否確認システム	岩手日報
23. 07. 02	高齢者を電話で見守りー野田システム運用開始	岩手日報
23. 08. 05	一人暮らし高齢者などの安全な生活を守ります	広報たきざわ
24. 02. 03	健康管理にICT利活用	電波新聞
24. 02. 10	Qo1-SNシンポジウムを開催 健康管理情報システムの充実・発展に向けて	電波タイムズ
24. 02. 16	教員紹介第2回 社会福祉学部小川晃子教授	学内新聞Prusuit
24. 03. 15	高齢者の“おげんき”を毎日確認システムと住民が一体となった見守り活動	滝沢村社会福祉協議会 広報誌

②受賞 なし

③その他 なし